



1面からつづく

子どもたちが次に取り組んだのは石や茶わん、紙コップ、空き缶などの「環楽器」を使った演奏です。環楽器という名前は、身の回りの環境にある物をそのまま楽器として使うことにちなんでいます。横川雅之先生と一緒に音楽教育活動をしている人が名づけました。

演奏方法もいろいろ

班ごとに一つの環楽器を使います。たたいたり、こすり合わせたり、投げたり。演奏方法もいろいろで、子どもたちが自由



「音を楽しいと感じたら音楽」とユニークな授業をする、横川先生

身の回りのもので「環楽器」



環楽器の茶わんを演奏する子どもたち。自分の音を見つけ、友達の音と合わせます

に考えます。

環楽器によってさまざまな音が出ます。車座になった子どもたちはまず、一人一人が自分の演奏を決めます。少し時間を空けて次の人が演奏を始めます。演奏の終わり方も一人ずつ順番

だったり同時だったり、グループごとに工夫します。「せい」という掛け声で環楽器同士をぶつけ、床にたたきつけるグループもありました。全員が演奏が重なる時、不思議な音楽のできあがりです。

「チンチン トトトン」「タタン タタン」「ギーリギーリ」「カチカチ カツツツ」聞こえる音楽は工場の中にいるようだったり、小鳥があいさつしているようだったり。楽しい演奏会になりました。

自分の音を見つけ 相手の音も聴き

横川先生は環楽器の特徴を、「楽譜が読めなくても、ピアノやリコーダーなどができなくても、誰でも簡単に演奏できます」と話します。そして、人と違う自分だけの音を見つけ、相手の音も大切にしながらお互いを思いやって演奏することが、音楽の基本だそうです。これは日々の生活にもつながります。音を聴いて環楽器を演奏することは、家庭でもすぐにできますね。「音を楽しめば音楽をしている」という横川先生の言葉通り、音楽の世界を広げてみましょう。

—おわり